

日本安全服用協会の設立記念シンポジウムのご案内

シンポジウムの狙いと要旨について

【全体のテーマ】

医療費削減→「2020年ジェネリック80%」のトレンドは不変！
2020年目標を乗り切るための最大のポイントを探る。

●三浦秀雄氏（創包工学研究会 会長）

【テーマ】「誤飲事故とCR包装の現状と問題点」

<要点>

最近注目されている誤飲問題（特にPTP）に関して、

1. 国内外の法的規制（特に欧米）
2. 厚労省・消費者庁の動向
3. 国内における誤飲問題の経緯
4. 誤飲の実態
5. 誤飲に関する問題点
6. 誤飲防止対策

などについて略述する。

●盛本修司氏（株）モリモト医薬 代表取締役）

【テーマ】「軟らか包装「ESOP」の紹介と実用化最新状況」

<要点>

1. モリモト医薬の事業紹介、技術の背景
2. 誤飲事故について
3. ESOPの開発（ESOPのサンプル紹介）
4. ESOPの評価（PTPとESOPの比較）
5. ESOPの製造システム
6. ESOPの流通・病院（薬局）への適用
7. スケジュール（工場立ち上げ他）
8. コンソーシアムとライセンス戦略
9. ESOPの課題

●三原千恵先生（日比野病院 脳神経外科）

【テーマ】「「ESOP」の臨床試験結果について」

<要点>

1. 錠剤を包装形態として、プラスチックフィルムの底にアルミニウムのシートで蓋をした形のPTPが主流となっている。
2. しかし子どもや高齢者がPTPごと飲み込む誤飲などの問題がある。これに対し開発された新しいタイプの包装ESOPを用いて、高齢者を対象とした使用経験を報告する。
3. 平均取り出し時間が最も短かったのは、PTP(L)でESOP、PTP(S)の順に長かった。錠剤を取りこぼす頻度はESOPの場合が最も少なかった。ESOPの平均取り出し時間は握力とピンチ力に相関していた。認知症や片麻痺のある対象でもESOPの取り出し時間はPTP(L)とほぼ同じであった。
4. ESOPは高齢者や障害を有する患者にとって、安全かつ簡便な包装形態として期待される。

● 芦澤一英氏（国立成育医療研究センター SSCI 研究所 所長）

【テーマ】「小児用製剤について」

<要点>

1. 欧米と日本における小児用製剤の開発状況の違い
2. 小児製剤元年と位置づけた厚生労働省の取り組みと「小児用製剤ラボ」の立ち上げ
3. 小児が服用できる経口剤とは
4. 小児用製剤プロジェクトについて
製剤化という取り組みに加え、安全服用という視点から服用ゼリーなども検討に入れ、さまざまな企業にプロジェクト参画をお願いしたい。